

西暦 (和暦)	経緯 (仮説を含む)	1906 (明治39年)	1911 (明治44年)	1912 (明治45年 大正元年)	1913 (大正2年)	1914 (大正3年)	1918 ～ 1919	1923 (大正12年)	1924 (大正13年)	1925 (大正14年)	1926 (大正15年 昭和元年)	1927 (昭和2年)	1928 (昭和3年)	1929	1930	1931 (昭和6年)	1932 (昭和7年)
祖父	仏光寺室町辺りに住み、五位庵は別業としていたが、後年室町を人に譲り五位庵を本邸とした。						この年に亡くなったか？										
父		26歳	母が16歳頃の写真を仏壇に飾るが、札から見ると、生前の母と似ていない。母の死後はときどき出かける			34歳再婚			44歳秋、体調すぐれず、加藤医院に初診、夫婦生活を禁じられる	8月、起きられなくなる 9月末、遺言、10月死亡			復活				
加藤医師	寺町今出川で開業医									8月から9月の間に亡くなる 遺言は加藤医師か		僧都と共に復活					
糺	加藤医師と茅渟の間に生まれるが、茅渟と共に糺の父のもとに行く	生まれる 数え年1歳	6歳	7歳 小学校入学日 曜日には父と乳母と3人で平八や嵐山電車で嵯峨方面へ行く	8歳春 経子を見る 6月 一緒に鯉に麩をやる	9歳3月 父に再婚話を聞かされる 4月父再婚 秋経子が乳を吸わせてくれる	13～14歳 頃から夜は一人で寝るようになったがその後経子と一緒に寝ることがあった	高校に入学する際、戸籍抄本で継母の本名を知る	高校2年 19歳	20歳正月、経子の妊娠を知る 5月、父の体調不良を知る 6月、経子に乳を飲まされ、抱き合う	百箇日 4月、大学入学	按摩を一通り覚える 11月、結婚(お酒で天へ)。			復活	春、離婚 先方の条件をすべて聞く 鹿ヶ谷の法然院のほとりにささやかな一戸を構える	
植木屋			1歳							15歳			大学3年		銀行に勤める		
生母(茅渟)	加藤医師の妻だったが、糺と共に糺の父のもとに行った	18歳	23歳秋 子癇で亡くなる														
2番目の母(経子)		13歳 舞妓になる	18歳	19歳 木綿問屋の若主人と不縁となり六条辺に両親と逼塞。		21歳結婚				32歳5月 武を産む 8月から9月の間に添水を止める		添水を復活 疲れが出る(結核か?) 沢子が注射をしていたか	6月27日百足に刺されてショック死				
乳母(お静)	お遊様の死後、乳母として糺の父を育て、いったん下がるが、糺・武を育てるために出てきた						糺が13～14歳の頃から下がる						11月、糺の結婚式に加藤氏の妻として出席する			65歳、武の面倒を見るために戻る	
長浜の乳母	加藤医師の乳母だったが、静が下がった後、糺の家で働く						静の代わりに乳母役を務める		58歳10月 下旬、経子の生い立ちを語り、長浜に帰る	8月から手伝い 初七日が終わると帰る			10月、1周忌(本当は3回忌)に親戚の心象を語る				
武	経子が産んだ子									5月、生まれる					6歳	7歳	小学校1年
第二の武	沢子が産んだ子										生まれる				5歳	6歳	
沢子	糺と実の兄弟(双子)か							盂蘭盆に糺の家で風呂に漬かる			7月、飲酒や池に足を浸すことを断る	10月成人式を行う					